のびる
53.8.24
第14号
道南腎協

「じん提供登録制度」

# 発足一年　三千人超す

じん臓の悪い人たちのために、自分の死後、じん臓を提供しますという「じん臓提供者登録制度」が発足して一年以上が過ぎた。すでに登録をすませた人は、全国で三千六百人余り。この制度のおかげで移植を受けた人はまだ一人もいないが、この一年を振り返ってみよう。

この制度は、社団法人・腎臓移植普及会が、厚生省の委託を受けて始めた。関東地区に続き、東北、東海・北陸、近畿、中国の各地区でも同様な制度が相次いでスタートした。

ねらいは、じん臓病患者とじん臓提供者とを一元的につかむことにある。

まず、全国で二万人といわれるじん臓病患者のうち、移植を受けたいと思っている患者の全身状態や血液型、リンパ球型、他人の白血球に対する抗体の有無といったデータを、千葉県佐倉市にある国立佐倉療養所内のコンピューターに入れておく。

一方、じん臓提供者には、「ドナー（提供者）カード」を渡し、常に身につけていてもらうようにする。提供者が亡くなった時、みとった医師や遺族が、そのカードをみて、すぐ同療養所に通報できるようにするためだ。通報を受けた同療養所では移植制度に協力している全国三十七の病院や研究所などの医療機関のうち、もっとも近い機関に連絡し、そこからじん臓摘出に出動してもらう。摘出されたじん臓のデータが再び佐倉療養所に報告され、移植希望者のうち、もっともそのじん臓を植えるのに適切な患者がコンピューターでさがし出されるというシステムだ。

死体じん臓移植にはいくつかの利点がある。たとえば、血縁者からでないと現実には難しい生体じん移植に比べ、患者がじん臓をもらうチャンスが多くなるなどだ。

発足以来一年たった今年六月末現在の提供希望登録者数は、関東二、四八三、東北三、八八一、東海・北陸二、一二、近畿三、四六、中国二、三〇の計三、六五九人。関東が他地区に比べ圧倒的に多いのは、スタートが四ヶ月早かったこともあるが、今年六月一ヶ月間の新規登録者数をみても関東は四二で、東海・北陸は三二、中国一六、東北一五、近畿六となっており、やはり関東が一番多い。性別では男二、〇〇〇人、女一、六五九人。登録時の年令別では、二十代九六三、三十代九七〇、四十代八二四、五十代五六七、六十代三三五、二十代と三十代で半数以上を占めている。問題点はいくつかある。

ます。提供者の数の伸び悩み。「スタート直後は関東地方だけに限っていたにもかかわらず、北海道から沖縄まで全国各地から電話が殺到して、夜十時すぎまで食事の時間もなかったのに、最近は……。」と同普及会の事務局員。新聞やテレビなどマスコミで紹介された直後には、また申し込みや問合せがふえることから、提供する意志があっても同会の存在や活動の内容がよく知られていないのではないか、という。

医療施設の問題もある。首尾よく移植するには無菌の手術室や手術用機器、摘出したじん臓の保存器などの設備のほか、摘出、移植に当たる医師や看護婦のスタッフが不可欠。摘出と移植を続けてやろうとすると、ベテラン医師八人が四時間はかかり切り。しかも移植後十分に機能を発揮させるためには、提供者の心臓が止まってから摘出までの時間の限度は、せいぜい九十分といわれる。だから常時待機体制でなければならない。

こうした制約から関東地区といっても山梨県は含まれていないし、九州、四国にはネットワークそのものがない。ネットワークを広げるとともに、細かく張りめぐらすことも必要なわけだ。

「そのためにも、登録制度にもっと理解と協力がほしい」と同会の海堀洋平理事はいっている。

（朝日新聞より転載）

## 腎臓提供者月計

53年6月

Ⅰ地域別

| | 関東 | 東北 | 東海北陸 | 近畿 | 中国 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 6月中 | 42 | 15 | 32 | 6 | 16 | 111 |
| 累計 | 2483 | 388 | 212 | 346 | 230 | 3659 |

Ⅱ男女別

| | 男 | 女 | 計 |
|---|---|---|---|
| 6月中 | 71 | 40 | 111 |
| 累計 | 2000 | 1659 | 3659 |

Ⅲ登録年令別

| | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 6月中 | 27 | 19 | 26 | 22 | 17 | 111 |
| 累計 | 963 | 970 | 824 | 567 | 335 | 3659 |

Ⅳ血液型

| | A | B | O | AB | 不明 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 6月中 | 33 | 21 | 37 | 7 | 13 | 111 |
| 累計 | 1271 | 746 | 1026 | 340 | 276 | 3659 |

北海道における「じん提供登録制度」は、北大医学部泌尿器科教室内「北海道腎移植を進める会」で行なっていますが、登録者の集計は、次の通りです。

| | 計 |
|---|---|
| 6月中 | 9 |
| 累計 | 397 |

Ⅱ 男女別

| | 男 | 女 | 計 |
|---|---|---|---|
| 6月中 | 4 | 5 | 9 |
| 累計 | 180 | 217 | 397 |

Ⅲ 年代別

| | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | 不明 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6月中 | 3 | 3 | 0 | 2 | 1 | 0 | 9 |
| 累計 | 140 | 101 | 79 | 52 | 25 | 0 | 397 |

Ⅳ 血液型

| | A | B | O | AB | 不明 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 6月中 | 4 | 1 | 1 | 1 | 2 | 9 |
| 累計 | 127 | 82 | 120 | 36 | 32 | 397 |

また、過日道南腎協で透析患者の実態調査を行ない、現在集計作業中ですが、腎移植の希望、家庭透析の希望の調査結果をまとめておきました。

調査用紙配布数 95部
回収数 84部
回収率 88.4%

※調査項目は、昭和51年に全腎協が行った「腎臓病患者の実態調査」を参考にしました。

41. 家庭透析の希望

| | 人数 | % |
|---|---|---|
| 希望する | 20 | 23.8 |
| 希望しない | 54 | 64.3 |
| 無回答 | 10 | 11.9 |
| 計 | 84 | 100 |

42. 希望していながらしていない理由

| | 人数 | % |
|---|---|---|
| 医療体制の不備 | 16 | 80.0 |
| 家庭内条件の不備 | 6 | 30.0 |
| 経済的理由 | 7 | 35.0 |
| その他 | 1 | 5.0 |
| 計 | 30 | |

＊複数回答

43. 希望しない理由

| | 人数 | % |
|---|---|---|
| 専門従事者の介護がないと不安 | 23 | 42.6 |
| 救急体制がない | 7 | 13.0 |
| 透析を家庭にもちこみたくない | 10 | 18.5 |
| 諸経費がかかる | 2 | 3.7 |
| 家が狭い | 1 | 1.9 |
| 計 | 45 | |

38. 移植希望

| | 人数 | % |
|---|---|---|
| 希望する | 43 | 51.2 |
| 希望しない | 35 | 41.7 |
| 無回答 | 6 | 7.1 |
| 計 | 84 | 100 |

39. 提供者

| | 人数 | % |
|---|---|---|
| 両親 | 6 | 14.0 |
| 兄弟姉妹 | 5 | 11.6 |
| 死体 | 27 | 62.8 |
| その他 | 2 | 4.7 |
| 無回答 | 3 | 7.0 |
| 計 | 43 | 100 |

40. 移植を希望しない理由

| | 人数 | % |
|---|---|---|
| 成功率に不安 | 10 | 28.6 |
| 体力に自信ない | 12 | 34.3 |
| 透析で十分 | 13 | 37.1 |
| その他 | 2 | 5.7 |
| 無回答 | 2 | 5.7 |
| 計 | 39 | |

＊複数回答のため100%を越える。

じん臓移植、家庭透析に関する調査について

今回の調査では「移植を希望する」が四三人（五一・二％）で「移植を希望しない」三五人（四一・七％）を上まわっている。

二年前に行なわれた全腎協の調査では「移植希望」が四六・六％、「移植したくない」が四二・六％だが、透析患者に対する比率でみると「移植希望」は五〇・四％となり、ほぼ同じ比率で移植を希望している。

もし移植するとしたら誰から提供を受けるかという問に対しては、「死体腎」を希望するものが二七人（六二・八％）と圧倒的に多く、「両親六人（一四・〇％）「兄弟姉妹五人（一一・六％）とつづく。全腎協の調査でも「死体腎」移植を希望するものが五九・二％であった。

移植を希望しない理由については、全腎協の調査では「成功率に不安」が五五・六％、「体力に自信がない」が二九・四％、「健保の適用がない」が一二・三％だったが、今回の調査では「透析で十分」というのが一三人（三七・一％）で一番多く、透析療法の進歩により安心して透析を受けられるようになったことを示している。

また、「成功率に不安」が、二八・六％に下っているが、手術に対する不安、成着率についての疑問など決して少なくないようだ。

なお、昭和五三年二月より、じん臓移植の健保適用が認められるようになったので、今調査からこの項目を削除した。

家庭透析については、本道においてまだ実施されていないのに二十人（二三・八％）も希望している。

また、じん臓移植についての意見が多数寄せられた。

「提供者がいれば、すぐにでも移植したい」

「国の補助を受けてどんどんやって下さい」

「死体腎の活用をもっと希望」

「道南地区に移植センターを」

「適合検査だけでも近くでできたら……」

等等、積極的な意見が多数を占めたが

「成功率が低いと聞いているので、今のところ透析していたい」

「手術の方がまだまだ不安」

「成着率、また成着後の使用可能年数について詳しく知りたい」
等、疑問や不安を感じている人も決して少なくない。
皆さんはどう考えますか。

[会員だより]

。丸山美枝子さん（渡沙）七月十五日　死亡により退会
。中森はじめ氏（渡沙）七月十七日　死亡により退会
。榎谷長一氏（平田沙）入会
　　茅部郡砂原町押出十四

53.5.25　透析南怕